

びわこ銀行環境方針

【基本理念】

びわこ銀行は、事業活動を通じて自然環境の維持と改善に努め、環境こだわり銀行として地域社会との共生を目指します。

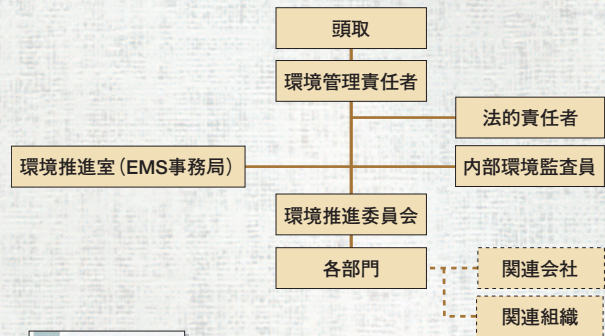
【環境方針】

1. びわこ銀行は、地球温暖化防止など環境負荷の軽減を推進するエコ・リーダーバンクとして、環境保全に資する商品・サービス・情報の提供など環境関連事業活動を積極的に展開し、環境保全活動の側面からも地域貢献を果たします。
2. 省資源、省エネルギー、グリーン購入など、環境に配慮した活動の実践により循環型社会の形成および汚染の予防に努めます。
3. 環境目的・目標を定めて、定期的な見直しを行い、環境マネジメントシステムの継続的な改善に努めます。
4. 環境保全に関する法規則および、同意したその他要求事項を順守します。
5. 緑の森林（もり）づくり運動の支援や環境教育の啓発に努め、基本理念および環境方針の趣旨を従業員一人ひとりが理解・共有し、行動することにより地域との交流を図ります。
6. 環境方針は当行の環境保全に関する決意として、一般に公表します。

制定 平成12年 7月 5日 株式会社びわこ銀行

改訂 平成17年 7月 5日 頭取 山田 啓

環境マネジメント組織図



環境マネジメントシステム登録証
活動範囲：本店および事務センター
[JQA-EM1274]



平成18年2月、ISO14001定期審査を受審し、より高い目標を目指す当行の取り組みを評価いただきました。

環境目的および目標

環境目標	実績	評価	推進状況
環境保全型・商品、情報の提供<環境銀行の運用>			
環境保全型商品	・エコ関連商品の開発	○	・優遇条件を適用 ・環境コベナンツ(特約)融資の取り扱い ・ガス利用、オール電化、太陽光発電設置、住宅性能基準と新たに「地産材住宅」を優遇条件に取り入れ ・耐震リフォームローン発売
	・エコ関連情報の提供	○	・全店宛にメールで最新環境情報を発信(160件)
	・環境に配慮した頒布品の購入	○	・頒布品は全て環境配慮商品としました ・再生した陶器を頒布品としています ・手揚げ袋もエコ仕様をしています
ISOマネジメントシステムによる銀行業務の合理化および効率化			
	・各部門の特色を生かした効率化、合理化につながる目標に取り組みました	—	・3R・3S活動、事務の合理化、時間効率活動など ・環境関連商品の開発
びわぎんエコオフィスづくり運動			
省エネ	・各部門は「運用基準」に基づく活動 (参考:平成16年度より運用管理) ・全体の電力使用量は160.0万Kwh	○	・各部門独自の運用基準を設定 ・不要時の消灯励行 ・省エネ機器への変更 ・組織変更に伴い総使用量は前年比増加しました
	・「関西エコオフィス宣言」参加により「夏季省エネ(ノーネクタイ運動)」を展開	△	・本店および全店で展開
省資源 (ゼロエミッションへの挑戦)	・低公害車率の向上、84.5%以上	○	・89.8%、前年比+6.3%
	・紙の使用削減、303.0万枚/年	△	・89.8%、前年比+6.3%
	・廃棄物(焼却紙)の削減、4.8トン/年	○	・4.6トン、前年比△4.2%
	・紙のリサイクル率向上、92.0%	○	・94.4%、前年比+2.4ポイント
グリーン購入	・特定商品のグリーン購入率93.0%	○	・94.5%、前年比+1.5ポイント
緑の森林づくり運動の推進			
環境保全活動への支援	・びわぎん緑と水の基金への支援	○	・延べ115千本の苗木を寄贈
	・びわこボランティア活動への支援	○	・「地球市民の森」で800本植樹(クヌギ、コナラ、山桜など) ・琵琶湖の美化に積極的に参加

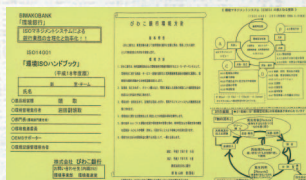
環境コミュニケーション

当行では、役職員への啓発はもとより、お取引先や地域に向けた環境関連情報発信により、さまざまな環境コミュニケーションを行っています。

□ 環境教育

「ISO14001」を運用していくためには、役職員一人ひとりの環境に対する意識改革が不可欠です。当行では、啓発活動として環境セミナーを定期的に行い、地球環境保全の重要性、環境マネジメントシステムの仕組み等について学習しています。また、毎年内部環境監査員を数名養成しています。

役職員に対しては、「環境目標、かんたんルール、自覚の教育」等を記載した環境ISOハンドブックの携帯を徹底し、環境意識の昂揚に努めています。



環境ISOハンドブック



環境レベルアップ研修
＜ISO14001：2004年度版研修＞



土曜講座：
滋賀県の地震防災対策
～ぐらっときたら～

□ 環境情報の提供

地域のエコ・リーダーバンクを目指す当行では、お取引先の皆さまに役立つ環境関連情報提供に努めています。平成17年11月には「耐震セミナー」を開催し、琵琶湖西岸断層帯の脅威に関心が高まっている中、お客さまの地震対策に有益な情報を提供しました。



耐震セミナー

- 環境報告書「びわぎん環境かわら版」を発行し、より多くの方に当行の取り組みを知っていただきました。



- 「エコさん一家の日曜日」

毎年、滋賀県や琵琶湖の環境にまつわるテーマ：平成18年度「びわ湖の水の循環について」、を選定し、お子さま向け環境学習冊子を発行しており、わかりやすいと評判です。また、巻末の環境クイズには毎回多数のご応募（平成17年度は約400件）をいただいています。

（VOL7.平成18年度版は当行ホームページに掲載中）



- 「なるほどISO14001」

- 「びわぎん経済情報」

- 「びわこビジネスクラブ」

事業主のお客さまへ、各種情報提供を行う「びわこビジネスクラブ」。環境ビジネス情報も充実しています。

（びわこビジネスクラブの環境関連情報ページを紹介します：抜粋）

- ▶ 環境・リサイクル

- ・ PRTR法の概要
- ・ 環境関連法に低コストで対応するには
- ・ 環境対策に対する主な公的支援策 など

- ▶ ISO14000

- ・ 環境経営とISO14001
- ・ ISO14001構築のポイント 法的及びその他の要求事項の抽出と運用など



□ 訓練・汚染の予防

当行では、「重油の油洩れ（給油時、貯蔵時）」、「ハロンガスの洩れ」等を緊急事態として特定し、定期的に手順のテストと緊急事態訓練を実施して、必要に応じた見直しを行っています。平成17年度の事故発生件数は0件でした。

また、当行における騒音の測定値は基準以下となっています。なお、平成17年度の環境関連クレームはありませんでした。



緊急事態訓練

□ PCBの管理

PCBを含む使用済みのコンデンサ、トランス、蛍光灯安定器などは、「PCB特別措置法」に基づき適切に保管・管理しています。

【PCB廃棄物保管状況】

種類	平成16年3月末	平成17年3月末	平成18年3月末
高圧コンデンサ	1台	1台	1台
蛍光灯安定器	101個	111個	130個



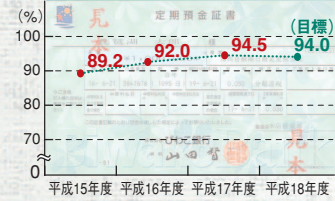
PCBを含むコンデンサ類保管庫

グリーン購入の推進

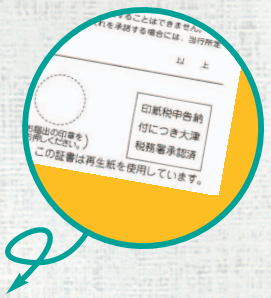
当行では、「グリーン購入基本方針」を制定し、事務用品から低公害車まで毎年購入物を見直しており、定期預金の証書もグリーン購入により対応しました。

- 主な取り組み項目
- 事務用品、パンフレット類、銀行書類（伝票、お礼の帯封、証書など）、自動車、コピー機など

【グリーン購入率】(本店)



※当行では定期預金証書も再生紙を利用しています



環境に配慮した頒布品の取り扱い

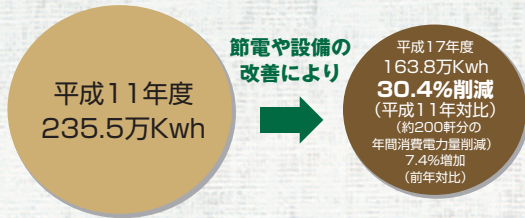
お客さまへの頒布品についても、ケナフ（CO₂吸収力の強い一年草）使用のティッシュペーパーや再生陶磁器をご用意。また、銀行の手提げ袋もエコ仕様（ダイオキシンのもとである塩化水素を除去するエコロマスターを使用）にしました。



省エネ・省資源活動

□ 省エネルギー推進

電力使用量の削減に努めています。平成17年度の本店および事務センターの電力使用量は163.8万Kwhとなり、平成11年度対比30.4%の削減を実現しました（平成17年度専門型営業体制の組織変更等により、前年対比7.4%増加）。削減量は一般的な家庭200軒分の電力使用量に相当します。



□ リサイクル

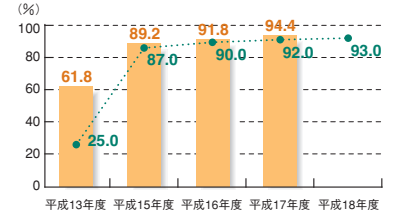
使用済みとなった紙のリサイクルを推進しています。当行ではその成果を還元するため、書類をリサイクル処理したトイレットペーパー1万ロールを滋賀県教育委員会を通じて、県立障害児教育諸学校（12校）に毎年寄贈しています。

- 機密関係書類は地元製紙会社に溶解し、ダンボール素材にリサイクル
- シュレッダーゴミはトイレットペーパーに（年間約5万ロール）リサイクル
- 廃蛍光灯を（年間約1,000本）建設資材等にリサイクル

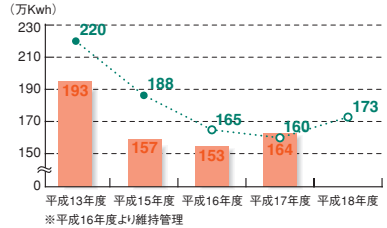
□ 廃棄物の削減

当行では、「紙ゴミゼロ大作戦」を展開。紙ゴミを中心に徹底した廃棄物削減に取り組んでおり、毎年成果をあげています。

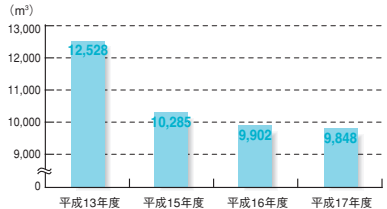
【廃棄物(紙)リサイクル率】(本店)



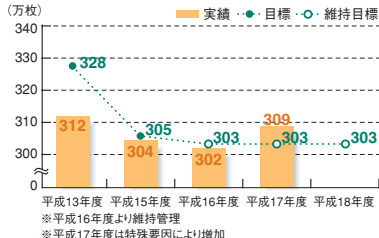
【電力使用量】(本店)



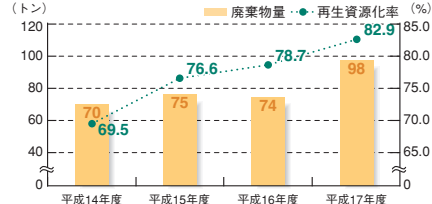
【水資源投入量】(本店)



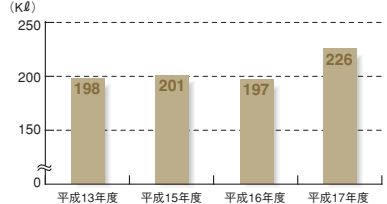
【紙の使用削減推移】(本店)



【廃棄物/再生資源化率】(本店)



【ガソリン使用量推移】(全店)



地球温暖化防止へ向けて

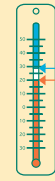


みんなで止めよう温暖化

チーム・マイナス6%

チーム・マイナス6%に参加

当行は政府が推進する「チーム・マイナス6%」に参加し、全店で地球温暖化防止に向けた取り組みを行っています。室温のきめ細かな設定（暖房20℃以下、冷房28℃以上）、空調機の運転時間の限定、アイドリング防止による排気ガス軽減啓発などにより、温室効果ガス削減に努めています。



28℃以上

COOLBIZ

クールビズ

20℃以下

WARMBIZ

ウォームビズ

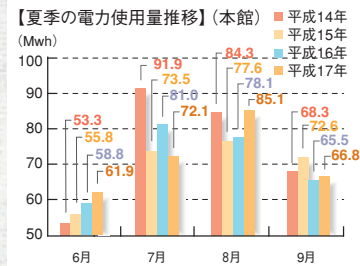
■ 平成13年度から継続「ノーネクタイ運動」

平成13年夏より夏季の省エネ対策として「びわこエコ・サマーキャンペーン」「ノーネクタイ運動」を全店において実施しています。ノーネクタイの場合、体感温度は約2℃下がるとされ、夏場の省エネ効果を上げています。なお当行は、政府の軽装推進「クール・ビズ」にも賛同しています。

■ 事業所対抗「省エネ・レース」に参加

CO₂削減を競う「省エネ・レース」に本店および県内62カ店が参加しています。

【省エネ・レースとは】電気・ガス・水道使用量の削減割合を競うレースです。
【主催】(財) 茨城環境保全財団と茨城県地球温暖化防止活動推進センター



■ 温室効果ガス (CO₂) 排出量削減・推進

環境関連融資などを通じたCO₂削減をはじめ、環境マネジメントシステム運用による当行自身の環境負荷軽減と1975年から継続する苗木の寄贈により、2010年には2000年比30%のCO₂削減を目標としています。

【びわこ銀行『STOP!地球温暖化』2010プラン】

西暦	元号	温室効果ガス (CO ₂) 排出量 (ト)					1990年比 (平成2年) 削減率 (%)	2000年比 (平成12年) 削減率 (%)	2004年比 (平成16年) 削減率 (%)	CO ₂ を吸収するのに 必要な杉の本数 (千本) (50年生/年)
		電力 (本店)	都市ガス (本店)	重油 (本店)	ガソリン (全店)	合計				
1990年	平成 2年	1,843	13	97	495	2,448	京都議定書基準年			
2000年	平成12年	937	16	82	485	1,520	37.9	ISO 14001取組開始		109
2004年	平成16年	586	17	57	465	1,125	54.0	26.0	京都議定書発効	80
2005年	平成17年	629	18	60	535	1,243	49.3	18.4	▲10.2	88
2010年	平成22年	545	17	56	439	1,057	56.8	30.5	6.0	76

項目	内訳	施策・目標	2000年→	2000年→
			2005年	2010年
			5年前対比	10年前対比
◆自らの環境負荷軽減	<ul style="list-style-type: none"> 電力使用量削減 都市ガス使用量削減 重油使用量削減 ガソリン使用量削減 	<ul style="list-style-type: none"> エコオフィス(クール・ビズ、ウォーム・ビズ)の推進 省エネ型の厨房(料理) 暖房時間厳守、温度管理の徹底 エコドライブ運動の推進 	△277ト	△463ト
◆事業活動を通じた環境負荷軽減	【環境関連事業活動】 ・環境サポートローン ・ISOサポートローン ・エコライフプラン等の支援活動によるCO ₂ 削減	<ul style="list-style-type: none"> 省エネ住宅(住宅性能表示) 新エネルギーローン(太陽光発電等) (1軒のご家庭の電力使用量が平均3,500kwh(年間)とし、20%の削減効果があったとして試算) 目標:20軒以上/年間 地産材住宅ローン (地場の木材輸送によるCO₂削減を試算) 	△209ト	△881ト
		<ul style="list-style-type: none"> オートローン(エコライフプラン) 目標:5台以上/年間 (環境対応車と従来車との対比を試算) 	△10ト	△36ト
◆緑の森林づくり運動	・昭和50年より苗木の寄贈	<ul style="list-style-type: none"> 継続した植樹活動 ・11万本×14kg=1,540ト/年 (林野庁H・Pより50年生の杉の木が1年間に吸収するCO₂を植樹本数に換算した場合) 	△1,610ト	△1,645ト
CO ₂ 期間中排出量/年間			1,243ト	1,057ト
(環境関連事業+びわごん緑と水の基金) =有益・間接的なCO ₂ 削減			△1,829ト	△2,602ト
【地球上に排出するCO ₂ 】差し引き			△586ト	△1,545ト

※温室効果ガス排出仮数は茨城県大気環境への負荷の低減に関する条例による

環境銀行トピックス ～この1年の歩み

年 月	内 容	主 催 等
平成17年 6月	グリーン購入 バイオディーゼル車導入 (廃天ぷら油を2トントラックに使用)	  (財) 淡海環境保全財団
平成17年 7月	参画 三方よし!!の「省エネ・お得ポイント」に154名が参加 各家庭での省エネ活動を記録しました 見学会 三重県環境森林部主催 「第3回金融機関環境経営セミナー」 環境経営サロンが当行で開催され、 29名の方にお越しいただきました	 三重県
平成17年 9月	パネラー参加 滋賀県立大学で開催された「環境シンポジウム」 にパネラーとして参加しました	 滋賀県 湖南振興局
平成17年10月	出展 第6回びわ湖環境ビジネスメッセ 「滋賀グリーン購入ネットワーク」 のブースにパネル出展しました	 滋賀環境ビジネスメッセ実行委員会
平成17年12月	受賞 「第2回エコプロダクツ大賞 エコサービス部門 環境大臣賞」 を受賞しました	  エコプロダクツ大賞推進協議会
平成18年 2月	講演 事業者向けグリーン購入セミナー「びわこ銀行のグリーン購入取り組み」	京都グリーン購入ネットワーク
平成18年 3月	掲載 「金融市場」3月号 今月の焦点「金融機関における環境問題・CSRの取り組み」 ～びわこ銀行の環境戦略	農林中央総研
	掲載 「リージョナルバンキング」3月号「環境銀行」環境配慮商品の提供	第二地方銀行協会
	受賞 第4回日本環境経営大賞 「大企業の部 環境経営優秀賞」	  日本環境経営大賞表彰委員会 三重県
平成18年 6月	事業所対抗「省エネ・レース」に参加 本店ならびに県内の支店62か店	(財) 淡海環境保全財団 滋賀県
	TV出演 びわこ放送 びびっとびわこN 「地元役に立つ『じぎん』づくり、びわこ銀行の取り組み」 講演 環境を考える府民のつどい <大阪グリーンファイナンスセミナー「環境と金融のいい関係」> 「地域に密着した環境銀行の取り組み」	 びわこ放送 大阪府、豊かな環境づくり大阪府民会議、 地球環境関西フォーラム
平成18年 7月	パネラー参加 ISO14001発行10周年記念 ISO14001と環境マネジメントシステムの将来を考える	 京都精華大学環境ソリューション研究機構 京都府、京都市、京都商工会議所など

スポーツ貢献

平成5年から始まった「手島杯争奪びわこ銀行学童野球」のほか、平成6年には「びわこ銀行杯少年サッカー選抜大会」、平成7年には「びわこカップ滋賀県中学生卓球大会」をそれぞれ創設し、以来、3つのスポーツ大会に協賛しています。当行は、スポーツ大会への協賛を通じて、湖国スポーツのレベルアップと子どもたちの健全な成長を願っています。



手島杯争奪びわこ銀行学童野球大会



びわこ銀行杯少年サッカー選抜大会



びわこカップ滋賀県中学生卓球大会